

越中一宮

高瀬神社社報



写真：祈年穀祭火繩受け神事

第3号

平成16年7月1日

越中一宮高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

撮影：南部写真館 南部 栄氏

社頭講話

「自然に親しみ自然から学ぶ」

宮司 藤井秀弘

自宅の裏庭に孟宗の竹藪があります。四月下旬から五月中旬にかけて毎日のようにタケノコが顔を出します。それを掘って近所の人たちに配るのが、家内の仕事となっています。

この頃になると親竹の葉は紅葉したように茶色に変わり、ひと風ごとに四方八方に散って行きます。子供の頃、縁側に座って、竹藪を眺めていると、父が「今頃の竹の葉は、なぜ茶色になっているのか知っているか。」と問われたことがあります。タケノコを育てるために自分の栄養を分け与えた結果、葉が枯れてしまうわけですが、そこにわが子に対する無償の愛情と深い親心を知りなさい。と教えたかつ

たのだと思います。最近、報道される事件や事故のなかに、親子関係の崩壊が原因で起きたものがたくさんあります。このような報道を見聞きすると、あらためて我が家の竹藪を眺めながら、父の問いかけを思い出しています。父は竹藪の竹の姿を通して、物言わぬ自然から何を学ぶべきかを教えたかつたのでしよう。あわただしい日常生活のなかで自分の生きざまを自然に学ぼうと努力している人はどのくらいおられるかわかりませんが、自然は何事においても先生であります。不自由のない便利な世の中ですが、情操豊かな人間になるためには、自然の摂理を十分に知ることが必要だと思えます。

戦後間もない頃、家計の足しになるようにと、父と二人で山林に入り、炭焼きをしたことがあります。夏の暑い太陽が照るなかで、雑木を切り、炭窯に詰め、火をつける。一回の作業で四十俵ほどの炭が出来ます。出し終えると、窯が冷めないうちに、すぐに次の雑木を入れて火をつけると、作業の繰り返しでした。炭焼き小屋に泊まり込むことが多く、不慣れた生活でしたが、山中で生活していると、人も自然の一部であり、生かされていることを実感させられました。

現在の自分があるのは、子ども頃から自然に接する機会が多く、その中で豊かな情操を育んでもらえたことと、多くの摂理を教えてもらえたことのおかげと感謝しています。更に「自然から学べ」と諭してくれた父にも感謝しています。

登山して山頂に立った時の達成感、何物にも代えがたい喜びですが、大切なのはその後な

のです。その経験から何を学んだのか。自然は何を教えてくれたのか。十分に考えてみる必要があります。天気が良ければ快適な登山が出来ます。景色が美しければなおさらです。もし、そうでなかったらどうでしょうか。自然に対する畏敬の念や「山の神」「川の神」といった神々への感謝が知らず知らずのうちに湧いてくると思えます。このような気持ちを持つひとが多くなければ、なるほど世の中は浄化されて、明るさを増してくると確信します。



祭 事 暦

毎月 十三日	毎月 十三日 一日	九月 二十二日	九月 十三日	八月 十六日	七月 二十二日	七月 十八日
交通安全祈願祭	月次祭	秋季皇霊祭	例大祭	中禮祭	除熱祭	人形感謝祭
<p>国の隆昌と皇室の弥栄、氏子崇敬者の幸福をお祈りするお祭りです</p>		<p>秋分の日に皇祖皇宗をはじめ各家々の祖先を偲び感謝するお祭りです</p>	<p>一年に一度、当社のご縁日に執り行う一番重要なお祭りです</p>	<p>一年の半分が無事に過ぎたことを感謝するお祭りです</p>	<p>日照りなどによる被害無く水稻や畑作物がすくすくと育つようお祈りするお祭りです</p>	<p>古くなった日本人形やぬいぐるみに感謝し、お炊き上げ（焼納）するお祭りです 人形展も開催します</p>

高瀬ゆかりの地を訪ねて

「国指定史跡・高瀬遺跡」

高瀬遺跡は、奈良・平安時代の荘園を管理した「荘所跡」と考えられる数棟の建物跡で、古代荘園跡として我が国初の国の史跡に指定されました。

昭和四五年におこなわれた文化庁の発掘調査では、木簡や土師器、須恵器、漆器、柱根など数々の貴重なものが発掘され、中心建物（主殿）は、五間（一〇・五メートル）×四間（二〇・二メートル）の規模で、建物群の南西側には幅が三メートルの水路跡もありました。

また周辺の集落跡からは、「家成」「南万呂」と書かれた墨書土器や「和同開珎」「神功開宝」などの銅銭が発見されました。また、古代よりこの地方が、礪波郡の中心であったことがうかがえ『続日本紀』には高瀬神が越中で最高の神格であったことが記されています。

発掘調査の成果は井波歴史民俗資料館で展示されています。

毎年六月の「高瀬遺跡菖蒲まつり」は地域あげてのイベントとなっています。

○井波歴史民俗資料館
開館時間
午前九時～午後五時
休館日
毎週月曜日・祝祭日の翌日
入館料
大人二一〇円、高校生以下無料



（資料提供）井波歴史民俗資料館

「春季祭」 齋行

去る四月十日午前十時より、神社役員・氏子・農協をはじめ関係者約四〇名の参列のもと、春季祭が斎行されました。

宮司祝詞奏上につづき、氏子で構成する雅楽会・鳳鳴クラブにより「浦安の舞」が奉奏されました。

参列者は、めぐり来た春への喜びと感謝の誠心を捧げ今年への豊作をお祈りしました。



春のお茶会

(北日本新聞社提供)



「となみ野茶会」(北日本新聞社主催)が六月六日開催されました。

茶道数内流米田アイ子さん(当神社崇敬者)が本席を勤め、香煎席も設けられました。

約四〇〇名の参加者は会場内に飾られた、軸「松風有清音」(猗々斎筆)や茶杓「清友」(青々斎作)などを拝見し、初夏の装いただよう境内の緑に囲まれ、お点前を満喫しました。

畝穀田だより

「御田植祭」 齋行

井波町中核農業士協議会(木村正治会長)による畝穀田のお田植え祭が、去る五月九日、井波町高瀬の岩倉清司氏(本年奉耕者)の水田で斎行されました。

当日は、荒天の空模様でありましたが、清都邦夫井波町長・島田勝由井波町議会議長をはじめ関係者六十名が参列しました。宮司の祝詞奏上につづき、



五名の早乙女が慣れない手つきではありましたが、コシヒカリの苗を丁寧に通しました。実った稲は九月中旬の「抜穂祭」で刈り取られ御神前にお供えされるほか、伊勢の神宮・明治神宮・靖国神社へ奉獻されることになっています。



早乙女奉仕者・順不同

- 岩崎 志織さん(福野高校一年)
- 藤原 美香さん(井波高校一年)
- 谷田乃里恵さん(井波高校一年)
- 小橋 里帆さん(福野高校一年)
- 岩倉 永吏さん(井波高校一年)

祈年穀祭齋行

農作物に病虫害が発生せず豊作になるよう祈る、当神社の特殊神事である「祈年穀祭」が六月十日午前十時より厳かに齋行されました。まず、御神前で御神火がともされ、あんどんの口ウソクに分火されました。

宮司祝詞奏上につづき、大前に砺波地区農業共同組合協議会からの幣帛が供えられ、奉幣使を務める佐野俊之会長による祭文が奏上されました。

引き続き奉仕員・参列者が境内大鳥居前に整列し、宮司と奉幣使が備えられたかがり火に点火し、拝礼しました。

翌十一日には御神火を伴って神輿が砺波広域圏四農協の本所を渡御しました。組合長以下職員総出で神輿を迎え、御神火を口ウソクに分火し、



お祈りしました。また、多年にわたり農業の発展に寄与された方々に贈られる「根尾宗四郎氏・上田又一氏遺徳顕彰事業」の農事功労表彰式が行われました。

(農事功労表彰) 順不同

- 宮川計介氏 (井口村)
- 今井良一氏 (城端町)
- 中田哲夫氏 (小矢部市)
- 田中一夫氏 (福岡町)



(神輿巡渡御行程)

- なんと農業協同組合
- 福光農業協同組合
- いなば農業協同組合
- となみ野農業協同組合

祈年穀祭とは

農事に関する数多い祭典の中でも、祈年穀祭の起因は非常に古く、社伝並びに宮中の記録によりますと、天武天皇の御代、当時、大変な病虫害の災によって農作物に大きな被害が続出するという有様で、天皇はこのことを痛く御心配なされ、天武天皇九年四月に勅使を遣わされて幣帛を献上、事態の収束と豊作を祈願されたことから始まっています。

江戸時代には加賀藩主前田家の崇敬も篤く、度々祈願をされました。また、明治維新後の明治二年七月には金沢藩前田藩知事が、大属藤原履伴を使わされ、臨時に幣帛を奉り五穀豊穡を祈願、同年九月には藤原定供を遣いとして、その感謝の祭典を齋行されました。

明治十九年より郡長が奉幣使として参向しておりましたが、行政機関の変遷により、現在は砺波地区農業協同組合協議会長に御奉仕を頂いております。

諸祭事のひとと

「牛岳開山祭・例祭」

御神山と仰ぎまつる「牛岳」(標高九八七㍎)の開山祭と例祭が六月六日、山頂の奥宮で斎行されました。

本来ならば五月十六日に



開山祭を
 斉行する
 予定でし
 たが、悪
 天候によ
 り例祭と
 併せて行
 われるこ
 とになり
 ました。

山田村役場、提供

山頂には山崎山田村長をはじめ関係者約三〇〇名が参列しました。

山頂付近の雪は、溶けて河川に流れ込み、この地方の水田を潤し、生活用水として利用されています。また、山頂付近には五㌔の登山コースがあり、健康増進や森林浴を目的に訪れる登山者が年々増えています。山の

恩恵に感謝しつつ参列者は五穀豊穡と登山の安全を祈念していました。

「八乙女山開山祭」

奈良時代に、春と秋に吹き荒れる風神を岩穴に封じ込めるために建立された「風神堂」の例祭が、町内の八乙女山(標高七五六㍎)山頂で斎行されました。

斎主祝詞奏上、巫女の「鈴扇の舞」につづき、約一五〇名の参列者は、玉串を奉り、一年間風災もなく無事過ごせるよう祈りました。また、祭典後、八乙女風神太鼓社中による奉納演奏もありました。



「献花式」



高瀬遺跡保存協会
 主催の「第三

〇回高瀬遺跡菖蒲まつり」が六月十九・二十日に開催されました。開催に先立ち、清都邦夫井波町長、横山豊介高瀬遺跡保存協会会長はじめ関係者約四十名の参列のもと、「献花式」が斎行され、権宮司の祝詞奏上に続き、「花菖蒲」が御神前に供えられ、まつりの成功を祈願しました。

祭典後、高瀬遺跡までの五〇〇㌔をボーイスカウトによるオーブニングパレードが行われ、まつりを盛り上げました。

本年度で三〇回目を迎える記念のまつりともあって、保育園園児たちのお遊ぎをはじめ多くの催し物が行われ、好天の中、両日共たくさんの方で賑わいました。

参拝日誌抄

(三月～五月)

「三月」

- 三日 (株)サン・スポーク(宇都宮市)
- 五日 群馬県神社庁高崎支部
- 高崎市神社総代会
- 十三日 立正佼成会(清掃奉仕)
- 竹馬の会
- 十八日 (株)神下組

「四月」

- 六日 春の交通安全祈願祭
- 八日 村総出(清掃奉仕)
- 高瀬地区老人クラブ連合会(金婚奉告祭)
- 十三日 立正佼成会(清掃奉仕)

「五月」

- 九日 井波自然観察友の会
- 十三日 立正佼成会(清掃奉仕)
- 二十三日 千葉県東金氏子旅行会
- 三十日 高岡関野神社氏子総代会

ご結婚おめでとうございます

本年二月から五月まで
御婚礼の御儀を執り行われた皆様です。(挙式日、時間順)

(二月)

七日 本田 康之様
晴津子様

(三月)

二十九日 谷川 憲一様
アラ様

(三月)

二十日 直海 史浩様
弓恵様

野村 拓也様
真奈実様

二十六日 古谷 智幸様
智子様

二十七日 吉本 智司様
ミキ様

清都 英雄様
寿代様

(四月)

十一日 後田 暁宏様
瞳様

(五月)

二十五日 田丸 光雄様
裕子様

(五月)

十五日 中道 亀治様
友香様

但田 和洋様
誠子様

小原 崇宏様
由希子様

二三日 島田 優平様
寛子様

二十九日 大西 真勝様
真弓様

飛田 俊雅様
陽子様

栢 友明様
瑠美子様

ご新郎ご新婦の末永いご多幸とご両家益々のご繁栄をお祈り
申し上げます。

御案内

「人形感謝祭」

七月十八日(日)午前十時より齋行
古くなった人形などご持参下さい。
人形展も同時開催。

「例祭」

九月十三日(月)午前十時より齋行
※御本社につづき功霊殿大祭を齋行い
たします。

「戌の日」 安産祈願

(七月)

六日(火・大安)

(八月)

十八日(日・先勝)
三十日(金・先負)
十一日(水・先勝)

(九月)

二三日(月・友引)
四日(土・友引)

(十月)

十六日(木・仏滅)
二八日(火・仏滅)

(十一月)

十日(日・仏滅)
二二日(土・赤口)
十五日(月・先勝)

(十二月)

九日(木・先勝)
二二日(火・友引)

※腹帯をご持参下さい。

「御祈祷」

家内安全・交通安全・初宮詣・
安産祈願・厄除・人生儀礼など「御
祈祷」は毎日午前八時三十分よ
り午後四時三十分まで随時受け
付けております。

祭典・結婚式等で御奉仕でき
ない時間帯もありますので、お
出かけの方は社務所までおたず
ね下さい。

編集後記

「献穀田」におきましては、
五月の「御田植祭」に植えられ
た苗が、日増しに青々と生育し
ております。大神様の御加護の
もと、このまま順調に育ってほ
しいと思います。

今年も水無月大祓によりまし
て、半年の罪穢れがとり除かれ
ました。暑い夏をのりきり、残
りの半年を清々しく過ごしたい
ものです。



「良き時代」の結婚式・披露宴



30名様パック
868,000円

挙式料・介添・会場費・カラーコーディネート料
音響・記念帳・招待状・席順表・料理・飲み物
ケーキ・装花一式・チャドレス
写真(2ポーズ、アルバム2冊)
衣裳(紋付一式、白無垢一式)
美粧(着付一式)
追加料金 お一人様 16,800円

50名様パック
1,285,000円

挙式料・介添・会場費・カラーコーディネート料
司会・音響・記念帳・招待状・席順表・料理
飲み物・ケーキ・装花一式・チャドレス
写真(2ポーズ、アルバム2冊)
衣裳(紋付一式、白無垢一式)
美粧(着付一式)
追加料金 お一人様 17,850円

玉椿プラン
260,470円

挙式料・介添
新郎新婦和装一式
(着付含…白無垢、袴)
写真(2ポーズ、アルバム2冊)

越中一宮高瀬神社にお仕えて60年余り 皆様から愛される**南部スタジオ**(神社専属)



婚礼から初宮、七五三と
家族の写真物語を
お撮り致します。

写真は一生の宝
南部スタジオ

井波町山下27 TEL 0763-82-0130
FAX 0763-82-6954

発行日 平成十六年七月一日

発行所 越中一宮高瀬神社

〒九三三〇二五二
富山県東礪波郡井波町高瀬一九一

TEL 〇七六三 八二二〇九三二
FAX 〇七六三 八二二〇〇四

編集人 浦

泰宏

印刷所 牧印刷株式会社